

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	器質性構音障害(口蓋裂)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時間	前期	教室名	教室
担 当 教 員	五條菜央 西野直子				
実務経験と その関連資格	<p>五條菜央 歯科医師。大阪歯科大学卒業。大阪大学歯学研究科博士課程修了。顎口腔機能治療部にて言語治療、摂食嚥下診療、睡眠歯科診療、ドライマウス診療など口腔機能に関わる診療に従事。</p> <p>西野直子 言語聴覚士。国立病院機構南京都病院リハビリテーション科に5年勤務。呼吸器、神経難病、重症心身障害児者の嚥下・高次脳機能へのリハビリに従事。大阪大学歯学部附属病院顎口腔機能治療部にて、口蓋裂をはじめとする器質性構音障害および機能性構音障害へのリハビリに従事。</p>				
《授業科目における学習内容》					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・口唇裂・口蓋裂の一貫治療、チーム医療について学ぶ。</li> <li>・出生前診断～誕生・乳児期～幼児期～学童期・思春期に至る各時期に必要な治療課題を学ぶ。</li> <li>・口唇裂・口蓋裂の鼻咽腔閉鎖機能の評価・治療、言語発達・構音の評価・訓練などの言語治療について学ぶ。</li> </ul>					
《成績評価の方法と基準》					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の各章の履修後に理解度確認テストを実施する。</li> <li>・学期末の試験で、第1回～15回の講義内容について理解度確認テストを実施する。</li> </ul>					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・口蓋裂の言語臨床 第3版 (医学書院)</li> </ul>					
《授業外における学習方法》					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・口唇口蓋裂の一貫治療を実施している病院における実習・見学など。</li> </ul>					
《履修に当たっての留意点》					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・口唇口蓋裂の一貫治療におけるSTの役割について学ぶ。・口蓋裂言語の評価、治療について学ぶ。</li> </ul>					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	口唇裂・口蓋裂の言語臨床を進めていくうえで不可欠な知識を学ぶ。	教科書・レジュメ		
	各コマにおける授業予定	2章 口蓋裂の言語臨床に必要な基礎知識 教科書p9 ～ 12 1. 発生発語器官の概略 2. 発生			
第2回	授業を通じての到達目標	口唇裂・口蓋裂の言語臨床を進めていくうえで不可欠な知識を学ぶ。	教科書・レジュメ	確認テスト① 第1～2回授業内容の復習	
	各コマにおける授業予定	2章 口蓋裂の言語臨床に必要な基礎知識 教科書p13 ～ 29 3. 口唇裂・口蓋裂のタイプ 4. 発生頻度 5. 合併症 8. 耳鼻科領域の問題 10. 心理社会的な問題 11. 社会資源の活用			
第3回	授業を通じての到達目標	出生前の胎児診断から始まる口唇裂口蓋裂の治療の流れを知る。	教科書・レジュメ		
	各コマにおける授業予定	口唇裂・口蓋裂の一貫治療について (大阪大学歯学部附属病院における治療を参考に)			
第4回	授業を通じての到達目標	一貫治療におけるSTの役割を知る。	教科書・レジュメ	確認テスト② 第3～4回授業内容の復習	
	各コマにおける授業予定	1章 口蓋裂治療における言語臨床家の役割 教科書p1 ～ 7			
第5回	授業を通じての到達目標	口蓋裂患者の言語発達や鼻咽腔閉鎖機能不全について学ぶ。	教科書・レジュメ		
	各コマにおける授業予定	3章 口蓋裂言語 教科書p31 ～ 34 2. 言語発達 3. 構音発達 4. 声の問題			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	異常構音の種類や特徴を学ぶ。	教科書・レジュメ	確認テスト③ 第5～6回授業内容の復習
	各コマにおける授業予定	3章 口蓋裂言語 教科書p34 ～ 49 5. 構音障害		
第7回	授業を通じての到達目標	鼻咽腔閉鎖機能の検査方法と診るべきポイントを学ぶ。	教科書・レジュメ DVD「口蓋裂言語検査」	
	各コマにおける授業予定	4章 口蓋裂言語の評価 教科書p51 ～ 66 1. 基本事項 2. 口腔・顔面の形態と機能の評価 3. 鼻咽腔閉鎖機能の評価		
第8回	授業を通じての到達目標	鼻咽腔閉鎖機能の検査方法と診るべきポイントを学ぶ。	教科書・レジュメ DVD「口蓋裂言語検査」	
	各コマにおける授業予定	4章 口蓋裂言語の評価 教科書p51 ～ 66 3. 鼻咽腔閉鎖機能の評価		
第9回	授業を通じての到達目標	構音検査の方法と異常構音の評価のポイントについて学ぶ。	教科書・レジュメ	
	各コマにおける授業予定	4章 口蓋裂言語の評価 教科書p66 ～ 74 4. 言語の評価		
第10回	授業を通じての到達目標	構音検査の方法と異常構音の評価のポイントについて学ぶ。	教科書・レジュメ	確認テスト④ 第7～10回授業内容の復習
	各コマにおける授業予定	4章 口蓋裂言語の評価 教科書p66 ～ 74 4. 言語の評価		
第11回	授業を通じての到達目標	系統的構音訓練の方法や各構音障害の訓練方法を学ぶ。	教科書・レジュメ	
	各コマにおける授業予定	5章 口蓋裂言語と治療 p84 ～ 99 1. 言語治療		
第12回	授業を通じての到達目標	系統的構音訓練の方法や各構音障害の訓練方法を学ぶ。	教科書・レジュメ	確認テスト⑤ 第11～12回授業内容の復習
	各コマにおける授業予定	5章 口蓋裂言語と治療 p84 ～ 99 1. 言語治療		
第13回	授業を通じての到達目標	口蓋裂言語に関する外科的治療や補綴装置について学ぶ。	教科書・レジュメ	
	各コマにおける授業予定	5章 口蓋裂言語と治療 p75 ～ 84 1. 医学的治療		
第14回	授業を通じての到達目標	口唇裂・口蓋裂に合併する先天性異常があることを知る。	教科書・レジュメ	
	各コマにおける授業予定	10章 口蓋裂に他の問題を併せもつ症例 1. 知的障害 2. 発達障害 3. 難聴 4. 吃音		
第15回	授業を通じての到達目標	各症候群についての知識を深める。	教科書・レジュメ	
	各コマにおける授業予定	10章 口蓋裂に他の問題を併せもつ症例 5. 症候群症例 講義のまとめ		